

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

1. <学問領域の定義が不明確>

健康スポーツ学部で取り扱う学問領域の定義が不明であるため、以下の観点について特に整理し、設置の趣旨、人材養成の目標、3つのポリシーを整合性のある内容に改めること。（是正事項）

- （1）設置の趣旨において「健康」と「スポーツ」の関係が不明確であり、新設学部・学科の人材養成の目標やその教育体系に整合性があるか判断できないため、「健康スポーツ学」として「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨とするのであれば、その関係性を具体的に説明するとともに、人材養成の目標に反映させること。・・・・・・・・・・ 1
- （2）人材養成の目標において「あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、医療系教育を背景に健康・運動・スポーツに関する科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」とあるが、ディプロマ・ポリシーにはその中核となるライフステージ（各年齢期）等に関する言及がないため、目標とする人材像をディプロマ・ポリシーに反映させること。・・・・・・・・・・ 4

2. <卒業後の想定される進路が不明確>

卒業後の進路として「スポーツ指導者や健康・スポーツサポートスタッフとして、幅広く活躍する」とあるが、学部の特色である「医療系教育を背景とした人材の育成」という点が具体的に見受けられないため、人材養成の目標において、想定される進路・業種を明確に記載すること。（改善事項）・・・・・・・・・・ 6

3. <教育課程の体系が人材養成の目標と不整合>

医療系教育を背景にスポーツ科学分野の知識等を提供し幅広い分野で貢献できる人材を育成することを目標としているが、それを実現する教育課程の体系として以下の観点が不十分であるため、整合性を持つよう適切に改めること。（是正事項）

- （1）医療系分野とスポーツ科学分野の両分野を必ずしも満たせる教育体系になっておらず人材養成の目標と不整合となっているため、適切に改めること。・・・・・・・・・・ 8
- （2）専門教育科目において「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門演習・実習分野」、「専門総合分野」の4つの領域によって編成しているとあるが、その領域の各科目の対応やつながりに関する記載がなく、専門教育の体系における基礎から発展への展開が不明確のため、具体的に説明すること。・・・・・・・・・・ 11

4. <大学教育として不適切な科目>

シラバス（授業計画）において「アカデミックリテラシー」の授業内容が説明されているが、日本語の基礎や四則演算を扱っており、大学教育水準としてふさわしいとは言えないため、大学教育水準にふさわしい内容に改めるか、単位外で開講すること。（是正事項）・・・・ 17

5. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で外国人留学生入学選考を実施するとあるが、方針等が不明確であるため、例えば日本語能力試験等の日本語の要件が設定されているのか、また入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、明らかにすること。(是正事項)・・・19

6. <授業方法に適した学生数の設定が不明確>

授業方法に適した学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態にのっとった教育目的を効果的かつ確実に実施すると説明がされているが、演習形式及び実習形式の科目の同時受講学生数を35～70名と幅を設けており教育効果に疑義がある。演習形式及び実習形式の科目ごとの受講学生数を明らかとし、効果的な教育ができることを明らかとすること。(是正事項)・・・21

7. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項)・・・23

8. <学部・学科の英語名称が不適切>

新設学部において「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨とするのであれば、Health and Sports Sciences という名称は既存のスポーツ科学系学部との差別化が不十分であり適切と言えない。あらゆる人々が各ライフステージにおいて健康で豊かな生活を送ることができるようにするという学部の目的を反映し、例えば HealthPromotion and Sports Sciences などと適切に変更すること。(是正事項)・・・24

9. <入学定員と募集人員の数が不整合>

各入試区分の募集人員(A0:7名、推薦:22名、一般:35名、センター利用:35名)の合計(99名)と入学定員(70名)が不整合であるため、入学定員と募集人員の合計数が一致するよう修正すること。(是正事項)・・・25

10. <教育研究に必要な電子ジャーナルの不足>

基本計画書において、電子ジャーナルの数が0となっているため、教育研究に支障がないよう適切に整備すること。(是正事項)・・・26

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

1. <学問領域の定義が不明確>

健康スポーツ学部で取り扱う学問領域の定義が不明であるため、以下の観点について特に整理し、設置の趣旨、人材養成の目標、3つのポリシーを整合性のある内容に改めること。

(1) 設置の趣旨において「健康」と「スポーツ」の関係が不明確であり、新設学部・学科の人材養成の目標やその教育体系に整合性があるか判断できないため、「健康スポーツ学」として「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨とするのであれば、その関係性を具体的に説明するとともに、人材養成の目標に反映させること。

(対応)

健康スポーツ学部では、「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨としていることから、「健康」と「スポーツ」の関係性について明確にした上で、人材養成の目標に反映させた。

1. 健康とスポーツの関係性について

スポーツ基本法(平成23年法律第78号)の前文においても謳われているように、「健康」と「スポーツ」は我々の生活を豊かにすることと密接に関わっている。「健康」は、その価値を健康の保持増進に置き、豊かな生活を送るために重要な意味合いをもつものである。さらに、「スポーツ」は、人々の生活をより豊かにするために組織化され、秩序化され、工夫されてきた文化であり、生活に密着して発展してきたものである。健康の保持増進にスポーツが果たす役割と、健康的で豊かな生活を送る中で価値を高めていくスポーツ文化の重要性を理解し、地域社会において指導的役割を果たす人材の育成が求められている。健康スポーツ学部では、この「健康」と「スポーツ」の関わりを重視し、「健康」と「スポーツ」の価値を融合させた教育を行う。

具体的には、「健康」に関する教育として、我が国の健康づくり施策、人体の構造やその機能、健康づくりと運動との関係性、健康のための運動指導のあり方等についての理解を図ることとしている。また、「スポーツ」に関する教育では、スポーツの成り立ちや意義、社会の中のスポーツ、運動の合理的な動き方や目的達成のための効果的なスポーツ指導のあり方、スポーツが心身に及ぼす影響や効果等の理解を図ることとしている。なお、「健康」や「スポーツ」に関する教育内容は、各科目の中に複合的に内在しており、この「健康」と「スポーツ」の双方を学ばせ融合させることで、スポーツの価値を理解すると共に、健康づくりにおけるスポーツの役割を理解し、21世紀の社会目標である「健康寿命の延伸」「国民医療費の抑制」に貢献する健康の保持増進のための運動やスポーツ実践力と指導力に関する能力を養うこととしている。以上のことを踏まえ、設置の趣旨において以下のように「健康」と「スポーツ」の関係性を具体的に説明した。

2. 人材養成の目標への反映について

健康スポーツ学部における「健康」と「スポーツ」の関係性を踏まえた上で、人材養成の目標について、「あらゆる人々が、各ライフステージ(各年齢期)において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」と

改めることとした。

(1) (新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (2 ページ)

新	旧
<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(3) 設置の趣旨・必要性</p> <p>18 歳人口の減少など高等教育を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、設置に関しては、健康寿命の延伸・国民医療費の抑制といった国の政策や地域社会の課題へ対応し、健康や医療に興味を示す進学希望者の意向を十分に見極める必要がある。つまり、健康・医療と福祉分野における高等教育機関としての個性や特色の明確化に一層努めながら、地方都市における高等教育機関として、人々の健康やスポーツの果たす役割について意識改革を行うなど、指導的役割を果たす必要性が生じている。<u>スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）の前文においても謳われているように、健康とスポーツは我々の生活を豊かにすることと密接に関わっている。健康は、その価値を健康の保持増進に置き、豊かな生活を送るために重要な意味合いをもつものである。さらに、スポーツは、人々の生活をより豊かにするために組織化され、秩序化され、工夫されてきた文化であり、生活に密着して発展してきたものである。健康の保持増進にスポーツが果たす役割と、健康的で豊かな生活を送る中で価値を高めていくスポーツ文化の重要性を理解し、地域社会において指導的役割を果たす人材の育成が求められている。</u>また、進学希望者の興味と関心や学修意欲に柔軟に答えていくためには広範囲に及ぶ健康・医療と福祉分野における高等教育が対象とする専門領域の幅を広げる工夫をすることが重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を踏まえた教育組織の整備と充実が求められている。</p> <p>(省略)</p> <p>以上のことから、高等教育を取り巻く社会情勢の変化や進学希望者の動向を踏まえるとともに、</p>	<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(3) 設置の趣旨・必要性</p> <p>18 歳人口の減少など高等教育を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、設置に関しては、健康寿命の延伸・国民医療費の抑制といった国の政策や地域社会の課題へ対応し、健康や医療に興味を示す進学希望者の意向を十分に見極める必要がある。つまり、健康・医療と福祉分野における高等教育機関としての個性や特色の明確化に一層努めながら、地方都市における高等教育機関として、人々の健康やスポーツの果たす役割について意識改革を行うなど、指導的役割を果たす必要性が生じている。また、進学希望者の興味と関心や学修意欲に柔軟に答えていくためには広範囲に及ぶ健康・医療と福祉分野における高等教育が対象とする専門領域の幅を広げる工夫をすることが重要となっており、学術研究の進展や進学希望者の動向を踏まえた教育組織の整備と充実が求められている。</p> <p>(省略)</p> <p>以上のことから、高等教育を取り巻く社会情勢の変化や進学希望者の動向を踏まえるとともに、</p>

<p><u>「健康」と「スポーツ」の価値観を理論と実践を通して関係させ、国民の健康増進の総合的な推進を図る基本的な事項でもある「健康寿命の延伸」「国民医療費の抑制」といった超高齢化社会の進展に伴う国の政策や地域社会の課題への対応、高校生の進学ニーズなどを見据えた上で、高等教育機関としての更なる発展と充実を目指して、平成32年4月より健康スポーツ学部を設置することとした。</u></p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[1]研究対象とする学問分野と教育研究上の目的</p> <p>本学部では、研究対象とする中心的な学問分野を「スポーツ科学分野」とし、教育研究上の目的を「あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、<u>スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知識</u>や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」こととする。</p> <p>(省略)</p>	<p><u>特に超高齢化社会の進展に伴う国の政策や地域社会の課題への対応、高校生の進学ニーズなどを見据えた上で、高等教育機関としての更なる発展と充実を目指して、平成32年4月より健康スポーツ学部を設置することとした。</u></p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[1]研究対象とする学問分野と教育研究上の目的</p> <p>本学部では、研究対象とする中心的な学問分野を「スポーツ科学分野」とし、教育研究上の目的を「あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、<u>医療系教育を背景に健康・運動・スポーツに関する科学的知識</u>や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」こととする。</p> <p>(省略)</p>
--	--

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

1. <学問領域の定義が不明確>

健康スポーツ学部で取り扱う学問領域の定義が不明であるため、以下の観点について特に整理し、設置の趣旨、人材養成の目標、3つのポリシーを整合性のある内容に改めること。

(2) 人材養成の目標において「あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、医療系教育を背景に健康・運動・スポーツに関する科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」とあるが、ディプロマ・ポリシーにはその中核となるライフステージ（各年齢期）等に関する言及がないため、目標とする人材像をディプロマ・ポリシーに反映させること。

(対応)

審査意見1(1)を踏まえ、健康とスポーツの関係性を明確にし、人材養成の目標に反映させた結果、「あらゆる人々が、各ライフステージ（各年齢期）において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、健康・運動・スポーツに関する医・科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」と改めることとした。この、目標とする人材像が明確にわかりやすく反映されるようディプロマ・ポリシーを、再検討し、「健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技能をもって、あらゆる人々の各ライフステージ（各年齢期）における健康で豊かな生活に貢献できる。」と改めた。

なお、カリキュラム・ポリシーについては、教育研究上の目的である「社会の状況に応じた健康・運動・スポーツ分野における専門的な知識や技能を提供し、豊かな人間性と協調性を有し、関連する専門職と連携・協力して問題を解決できる力を高めることのできる人材を育成する」ことを達成するために定めている。この「社会の状況に応じた」という表現には、今日の社会状況の一つであるメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム、子どもの運動不足などを背景にその対象は子どもから高齢者まで幅広い年齢層であり「あらゆる人々の各ライフステージ（各年齢期）」という意味合いが含まれていることから、カリキュラム・ポリシーの変更は必要ないものとした。

(2) (新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (7ページ)

新	旧
1. 設置の趣旨及び必要性 (4) 人材養成の目標 [2]養成する人材と教育目標 (省略) 【ディプロマポリシー（学位授与の方針）】 ① 健康・運動・スポーツの専門家としての使命感と責任感を持ち、ひとを思いやる豊かな人間性を身につけている。	1. 設置の趣旨及び必要性 (4) 人材養成の目標 [2]養成する人材と教育目標 (省略) 【ディプロマポリシー（学位授与の方針）】 ① 健康・運動・スポーツの専門家としての使命感と責任感を持ち、ひとを思いやる豊かな人間性を身につけている。

<p>② 健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技能をもって、<u>あらゆる人々の各ライフステージ（各年齢期）における健康で豊かな生活に貢献できる。</u></p> <p>③ 専門的知識や技能を発揮する場において、他者と協力し様々な問題をチームとして解決することができる。</p> <p>④ 地域社会において健康・運動・スポーツに関する様々な情報を専門的立場から提供できる。</p> <p>⑤ 研修や講習等を通じて、健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技術の向上に努めることができる。</p>	<p>② 健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技能をもって、<u>健常者・障害者の健康で豊かな生活に貢献できる。</u></p> <p>③ 専門的知識や技能を発揮する場において、他者と協力し様々な問題をチームとして解決することができる。</p> <p>④ 地域社会において健康・運動・スポーツに関する様々な情報を専門的立場から提供できる。</p> <p>⑤ 研修や講習等を通じて、健康・運動・スポーツに関する専門的知識や技術の向上に努めることができる。</p>
---	--

(改善事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

2. <卒業後の想定される進路が不明確>
 卒業後の進路として「スポーツ指導者や健康・スポーツサポートスタッフとして、幅広く活躍する」とあるが、学部の特色である「医療系教育を背景とした人材の育成」という点が具体的に見受けられないため、人材養成の目標において、想定される進路・業種を明確に記載すること。

(対応)

審査意見1(1)を踏まえ、健康とスポーツの関係性を明確にし、人材養成の目標に反映させた結果、学部の特色についても「スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもとスポーツ科学分野における医・科学的知見を兼ね備え、健康・運動・スポーツ教育を通して、人々の健康増進に貢献できる人材の育成」と改めることとした。これを踏まえ、人材養成の目標における想定される具体的な進路・業種を明確に記載した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (6 ページ)

新	旧
<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[2]養成する人材と教育目標</p> <p>(省略)</p> <p>卒業後の進路としては、社会教育行政において、人々の生涯学習活動に対し、指導・助言を与える指導者（社会教育士）または、企業などで労働者の健康管理や健康の保持増進のための措置を行う管理者（第1種衛生管理者）、スポーツクラブやフィットネスクラブなどの会員制スポーツクラブ <u>及び病院や健康増進施設</u>において、幅広い世代の人々に対して、個々人の興味と関心や競技レベルに応じたさまざまな運動・スポーツ活動を提供する指導者（健康運動指導士・NSCA パーソナルトレーナー等）やサポートスタッフとして活躍することが想定される。 <u>また、健康・運動・スポーツに関する学びを活かしスポーツ関連企業やヘルスケア関連企業での活躍や、健康・スポーツ系大学院への進学が想定される。</u></p>	<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[2]養成する人材と教育目標</p> <p>(省略)</p> <p>卒業後の進路としては、社会教育行政において、人々の生涯学習活動に対し、指導・助言を与える指導者（社会教育士）または、企業などで労働者の健康管理や健康の保持増進のための措置を行う管理者（第1種衛生管理者）、スポーツクラブやフィットネスクラブなどの会員制スポーツクラブにおいて、幅広い世代の人々に対して、個々人の興味と関心や競技レベルに応じたさまざまな運動・スポーツ活動を提供する指導者（健康運動指導士・NSCA パーソナルトレーナー等）やサポートスタッフとして活躍することが想定される。</p> <p>また、教育現場において、スポーツ教育はもとより、運動・スポーツを通じた子どもの健康の増進と体力や技能の向上のための活動を展開し、子どもの健全な育成や放課後に行われる運動部活動</p>

<p>また、教育現場において、スポーツ教育はもとより、運動・スポーツを通じた子どもの健康の増進と体力や技能の向上のための活動を展開し、子どもの健全な育成や放課後に行われる運動部活動の指導など、スポーツ教育の活動を通して社会に貢献する人材を養成する。</p> <p>卒業後の進路としては、中学校や高等学校などの教育機関において、ジュニア期より科学的知見に基づいたスポーツ教育を通して、健康や運動の必要性を説く保健体育教員として活躍することが想定される。</p> <p>(省略)</p>	<p>の指導など、スポーツ教育の活動を通して社会に貢献する人材を養成する。</p> <p>卒業後の進路としては、中学校や高等学校などの教育機関において、ジュニア期より科学的知見に基づいたスポーツ教育を通して、健康や運動の必要性を説く保健体育教員として活躍することが想定される。</p> <p>(省略)</p>
---	--

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

3. <教育課程の体系が人材養成の目標と不整合>

医療系教育を背景にスポーツ科学分野の知識等を提供し幅広い分野で貢献できる人材を育成することを目標としているが、それを実現する教育課程の体系として以下の観点が入り不足であるため、整合性を持つよう適切に改めること。

- (1) 医療系分野とスポーツ科学分野の両分野を必ずしも満たせる教育体系になっておらず人材養成の目標と不整合となっているため、適切に改めること。

(対応)

1. 人材養成の目標について

人材養成の目標である「医療系教育を背景に健康・運動・スポーツに関する科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」という点については、審査意見1(1)を踏まえ、健康とスポーツの関係性を明確にし、人材養成の目標に反映させた結果、「あらゆる人々が、各ライフステージ(各年齢期)において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知識や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」と改めることとした。また、現在の教育体系は、審査意見1(1)の対応に記載したとおり、「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育体系となっており、人材養成の目標との整合は図れている。

(1) - 1 (新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (6 ページ)

新	旧
<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[1] 研究対象とする学問分野と教育研究上の目的</p> <p>本学部では、研究対象とする中心的な学問分野を「スポーツ科学分野」とし、教育研究上の目的を「あらゆる人々が、各ライフステージ(各年齢期)において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、<u>スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知識</u>や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」こととする。</p> <p>(省略)</p>	<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(4) 人材養成の目標</p> <p>[1] 研究対象とする学問分野と教育研究上の目的</p> <p>本学部では、研究対象とする中心的な学問分野を「スポーツ科学分野」とし、教育研究上の目的を「あらゆる人々が、各ライフステージ(各年齢期)において、健康で豊かな生活を送ることができるよう、<u>医療系教育を背景に健康・運動・スポーツに関する科学的知識</u>や技術を提供し、幅広い分野で貢献できる人材を育成する」こととする。</p> <p>(省略)</p>

2. 設置の趣旨における関連する表現について

上述のとおり、人材養成の目標を改めたことに伴い、設置の趣旨における関連する表現についても適切に改めた。

(1) - 2 (新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (1、3、5、7 ページ)

新	旧
<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(2) 設置する学部・学科の構成</p> <p>今般設置する「健康スポーツ学部健康スポーツ学科」は、健康・医療・福祉分野で活躍する人材を育成する総合大学として長年にわたり培ってきた、<u>健康や医療に関する教育研究実績を踏まえ、スポーツ科学分野における医・科学的知見に基づき人々の生活習慣病の予防や改善、介護予防等を視野に入れた健康寿命の延伸に関わる、本学の新たな教育研究分野を構築していくことを重視する学部・学科として設置する。</u></p> <p>(3) 設置の趣旨・必要性</p> <p>[1] 地域社会への貢献と教育研究組織の充実</p> <p>本大学は、平成 10 年 4 月に保健医療学部と医療福祉学部の 2 学部をもって開学し、その後、8 学部 10 学科を擁する健康・医療・福祉分野の総合大学へと成長を遂げている。</p> <p>今般、設置を計画している「健康スポーツ学部」では、健康・医療・福祉分野の総合大学として長年にわたり培ってきた教育研究実績のうち、<u>スポーツ科学分野における医・科学を軸に国の政策や地域が抱える健康と運動に関する諸課題への対応に向けた教育研究組織として設置することにより、地域社会へのさらなる貢献を目指すものであり、併せて健康・医療・福祉分野の総合大学としての教育研究組織の一層の整備と充実を図るものである。</u></p> <p>(省略)</p>	<p>1. 設置の趣旨及び必要性</p> <p>(2) 設置する学部・学科の構成</p> <p>今般設置する「健康スポーツ学部健康スポーツ学科」は、健康・医療・福祉分野で活躍する人材を育成する総合大学として長年にわたり培ってきた、<u>健康や医療に関する教育研究実績を基に、医学的・生理学的知見に基づき人々の生活習慣病の予防や改善、介護予防等を視野に入れた健康寿命の延伸に関わる、本学の新たな教育研究分野を構築していくことを重視する学部・学科として設置する。</u></p> <p>(3) 設置の趣旨・必要性</p> <p>[1] 地域社会への貢献と教育研究組織の充実</p> <p>本大学は、平成 10 年 4 月に保健医療学部と医療福祉学部の 2 学部をもって開学し、その後、8 学部 10 学科を擁する健康・医療・福祉分野の総合大学へと成長を遂げている。</p> <p>今般、設置を計画している「健康スポーツ学部」では、健康・医療・福祉分野の総合大学として長年にわたり培ってきた教育研究実績のうち、<u>健康分野におけるスポーツ学や医学・生理学を軸に国の政策や地域が抱える健康と運動に関する諸課題への対応に向けた教育研究組織として設置することにより、地域社会へのさらなる貢献を目指すものであり、併せて健康・医療・福祉分野の総合大学としての教育研究組織の一層の整備と充実を図るものである。</u></p> <p>(省略)</p>

<p>[4]地域社会からの要望</p> <p>1) 広島県・東広島市・呉市からの要望 (省略)</p> <p>このように広島県、東広島市、呉市では国の基本方針を受けて、スポーツの振興に向けた運動・スポーツ活動に関する様々な施設や事業が展開されており、当該施設や事業を支える質の高い人材の確保及び養成が求められていることから、<u>本学に地域社会を取り巻く状況や地域社会からの要望をふまえた上で、スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知見を兼ね備えた実践的な指導力を発揮できる健康・スポーツ活動を展開できる人材の養成を目的とする「健康スポーツ学部」設置の要望がなされている。</u></p> <p>(省略)</p> <p>2. 学部、学科等の特色</p> <p>本学部は、<u>スポーツの価値と健康づくりにおけるスポーツの役割の理解のもと、スポーツ科学分野における医・科学的知見を兼ね備え、健康・運動・スポーツ教育を通して、人々の健康増進に貢献できる人材の育成を特色としている。</u>こうした、健康寿命の延伸、国民医療費の抑制に貢献しうる人材（単なる経験主義に頼らず、科学的知見を身に付けた運動・スポーツ指導者）の養成は、近隣の大学では見られない本学独自の特色であり、養成される人材は今後社会から一層求められるものである。</p> <p>(省略)</p>	<p>[4]地域社会からの要望</p> <p>1) 広島県・東広島市・呉市からの要望 (省略)</p> <p>このように広島県、東広島市、呉市では国の基本方針を受けて、スポーツの振興に向けた運動・スポーツ活動に関する様々な施設や事業が展開されており、当該施設や事業を支える質の高い人材の確保及び養成が求められていることから、<u>本学に地域社会を取り巻く状況や地域社会からの要望をふまえた上で、医学的知見を兼ね備えた実践的な指導力を発揮できる健康・スポーツ活動を展開できる人材の養成を目的とする「健康スポーツ学部」設置の要望がなされている。</u></p> <p>(省略)</p> <p>2. 学部、学科等の特色</p> <p>本学部は、<u>医療系教育（健康スポーツ概論やスポーツ生理学、人体機能解剖学、スポーツ医学など）を背景に健康・運動・スポーツ教育を通して、人々の健康増進に貢献できる人材の育成を特色としている。</u>こうした、健康寿命の延伸、国民医療費の抑制に貢献しうる人材（単なる経験主義に頼らず、<u>医療系分野で培ってきた</u>科学的知見を身に付けた運動・スポーツ指導者）の養成は、近隣の大学では見られない本学独自の特色であり、養成される人材は今後社会から一層求められるものである。</p> <p>(省略)</p>
--	---

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

3. <教育課程の体系が人材養成の目標と不整合>

医療系教育を背景にスポーツ科学分野の知識等を提供し幅広い分野で貢献できる人材を育成することを目標としているが、それを実現する教育課程の体系として以下の観点が不十分であるため、整合性を持つよう適切に改めること。

(2) 専門教育科目において「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門演習・実習分野」、「専門総合分野」の4つの領域によって編成しているとあるが、その領域の各科目の対応やつながりに関する記載がなく、専門教育の体系における基礎から発展への展開が不明確のため、具体的に説明すること。

(対応)

専門教育科目については、基礎から発展への展開が明確になるよう講義と演習・実習科目を対応させ、理論と実技が一体となるように構成し、各年次に適切に配置することによりスポーツ科学分野における医・科学的な知識や技能を有した人材に求められる教育内容を系統的に学修するため、4つの各領域「専門基礎分野」「専門分野」「専門演習・実習分野」「専門総合分野」を編成し科目を配置している。この4つの領域の各科目の対応やつながりについて、設置の趣旨において具体的に説明することとした。

また、2つの履修モデル（「健康・トレーニング系」「社会・スポーツ教育系」）において、両モデルにまたがって複数の資格取得を可能にするべく選択科目の専門教育科目を多く配置している。

1. 専門基礎分野

「専門基礎分野」は健康やスポーツに関する基礎を学修する科目群とし、その中で健康とスポーツ、さらにはその関係性を学ぶ意義や目的を理解する「健康スポーツ概論」を必修科目としている。その上で、想定する2つの履修モデルにおいて必要とされる基礎的な理論や知識について学修する科目として、スポーツの原理や歴史と社会的な特性について理解する「スポーツ原理」「スポーツ社会学」「スポーツ史」、健康運動指導やスポーツ指導の基礎理論となる「スポーツ運動学」「バイオメカニクス」、運動が身体に及ぼす効果や影響と人体の機能や構造について理解する「スポーツ生理学」「人体機能解剖学」の7科目を必修科目として配置している。

また、健康やスポーツに関する基礎・基本を広く学修する科目として、スポーツの経営管理やビジネスについて理解する「スポーツ経営管理学」「スポーツビジネス特論」、スポーツの実践や指導に必要な知見となる「スポーツ心理学」「スポーツ栄養学」「スポーツ医学」「衛生学・公衆衛生学」、健康スポーツの効果的な指導について理解する「コーチング論」「トレーニング論」を選択科目として配置している。

さらに、健康と安全について理解を深め、生涯を通じて健康を適切に管理し、健康の保持・増進のための活動について理解する科目として、「健康教育学」「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習支援論Ⅰ」「社会教育経営論Ⅰ」「学校保健」「レクリエーション概論」を選択科目として配置している。

また、スポーツ実技の実践を通して知識と技能を高め、それらを活用して各種目特有の運動課題を解決できる能力を育てる科目として「スポーツ実技A（陸上競技）」「スポーツ実技A（器械運動）」「ス

ポーツ実技A（水泳）」「スポーツ実技A（健康体力づくり）」「スポーツ実技B（ダンス）」「スポーツ実技B（武道1）」「スポーツ実技B（武道2）」「スポーツ実技C（ゴール型1）」「スポーツ実技C（ゴール型2）」「スポーツ実技C（ベースボール型）」「スポーツ実技C（ネット型1）」「スポーツ実技C（ネット型2）」「スポーツ実技D（野外活動1）」「スポーツ実技D（野外活動2）」を選択科目として配置している。

2. 専門分野

「専門分野」は、「専門基礎分野」の発展的科目の立場から、学修目標に沿った主体的な科目の選択をさせるための科目群として、学生の興味と関心に応じた専門的な知識や技能の深化を図る「身体スポーツ文化論」「スポーツ解析演習」「運動処方演習」「トレーニングプログラム演習」「レクリエーション演習」「保健体育科教育法Ⅰ」「保健体育科教育法Ⅱ」「保健体育科教育法Ⅲ」「保健体育科教育法Ⅳ」「生涯学習概論Ⅱ」「生涯学習支援論Ⅱ」「社会教育経営論Ⅱ」「労働法規Ⅰ」「労働法規Ⅱ（労働と環境）」を選択科目として配置している。また、「身体スポーツ文化論」は専門基礎分野における科目「健康スポーツ概論」「スポーツ原理」「スポーツ史」「スポーツ社会学」「スポーツ経営管理学」「スポーツビジネス特論」の発展的科目、「スポーツ解析演習」は専門基礎分野における科目「バイオメカニクス」「スポーツ運動学」の発展的科目、「運動処方演習」は専門基礎分野における科目「運動処方論」「体力測定評価」「スポーツ医学」「スポーツ生理学」「人体機能解剖学」の発展的科目、「トレーニングプログラム演習」は専門基礎分野における科目「トレーニング論」の発展的科目、「レクリエーション演習」は専門基礎分野における科目「レクリエーション概論」の発展的科目、「生涯学習概論Ⅱ」「生涯学習支援論Ⅱ」「社会教育経営論Ⅱ」は、それぞれ専門基礎分野における「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習支援論Ⅰ」「社会教育経営論Ⅰ」の発展的科目として位置付けている。

3 専門演習・実習分野

「専門演習・実習分野」では、専門分野に関する発展的な科目の立場から課題解決能力や健康スポーツの実践指導に適用できる知識と技能の統合を図る科目群として、文献研究や調査研究を通じて、研究意識の涵養を図る「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」「スポーツ科学演習C」「スポーツ科学演習D」を選択科目として配置している。そして、「スポーツ科学演習A」は専門基礎分野の「スポーツ原理」「スポーツ社会学」「スポーツ経営管理学」「スポーツ史」、専門分野の「身体スポーツ文化論」の発展的科目、「スポーツ科学演習B」は専門基礎分野の「バイオメカニクス」「スポーツ運動学」「トレーニング論」、専門分野の「スポーツ解析演習」「トレーニングプログラム演習」の発展的科目、「スポーツ科学演習C」は専門基礎分野の「スポーツ生理学」「運動処方論」「人体機能解剖学」「体力測定評価」、専門分野の「運動処方演習」の発展的科目、「スポーツ科学演習D」は専門基礎分野の「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習支援論Ⅰ」「社会教育経営論Ⅰ」、専門分野の「生涯学習概論Ⅱ」「生涯学習支援論Ⅱ」「社会教育経営論Ⅱ」の発展的科目として位置付けている。

また、実際のスポーツ実技指導をベースに健康増進運動指導へと反映させて指導を行う場面を想定した指導計画や指導方法を修得する「スポーツ実技指導演習A（陸上競技）」「スポーツ実技指導演習A（器械運動）」「スポーツ実技指導演習A（水泳）」「スポーツ実技指導演習A（健康体力づくり水泳）」「スポーツ実技指導演習B（ダンス）」「スポーツ実技指導演習B（武道1）」「スポーツ実技指導演習B（武道2）」「スポーツ実技指導演習C（ゴール型1）」「スポーツ実技指導演習C（ゴール型2）」「ス

ポーツ実技指導演習C（ベースボール型）」「スポーツ実技指導演習C（ネット型1）」「スポーツ実技指導演習C（ネット型2）」「スポーツ実技指導演習D（野外活動1）」「スポーツ実技指導演習（野外活動2）」を選択科目として配置している。そして、子供から高齢者まで、障害者から健常者までの幅広い人々を対象に健康スポーツの指導計画や指導法を修得する「障がい者スポーツ演習」「介護予防運動演習」「健康運動指導実習」「エクササイズ指導実技」「エクササイズ指導実習」「社会教育実習A」「社会教育実習B」を選択科目として配置している。

4 専門総合分野

「専門総合分野」は、専門的な知識と技能の統合化を図るとともに、基礎的な研究能力と自発的な学修態度を身に付ける科目群として、健康やスポーツに関する知識や技能の重要性を改めて認識させ、これまで学修した専門的な知識や技能を総合的に活用できる能力を修得する「健康スポーツ学総合演習Ⅰ」「健康スポーツ学総合演習Ⅱ」を必修科目として配置し、各自の研究テーマに則した研究計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、研究テーマに関する成果発表を行う「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を必修科目として配置している。

(2) (新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (15～17 ページ)

新	旧
<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程の特色及び履修順序の考え方</p> <p>[3]専門教育科目</p> <p>(省略)</p> <p>1) 専門基礎分野</p> <p>(省略)</p> <p>④「スポーツ実技A（陸上競技・器械運動・水泳・健康体力づくり）」(各種目1単位)・「スポーツ実技B（ダンス・武道1：柔道・武道2：剣道）」(各種目1単位)・「スポーツ実技C（ゴール型1：サッカー・ゴール型2：バスケットボール・ベースボール型：ソフトボール・ネット型1：バドミントン・ネット型2：バレーボール）」(各種目1単位)・「スポーツ実技D（野外活動1：スキー・野外活動2：キャンプ）」(各種目1単位)</p> <p>スポーツや運動の特性と戦術やルールについての理解とともに、スポーツや運動の基本的な技術と上達の過程や健康や体力、<u>体力づくり</u>との関係を理解するための基礎的科目。</p>	<p>4. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(2) 教育課程の特色及び履修順序の考え方</p> <p>[3]専門教育科目</p> <p>(省略)</p> <p>1) 専門基礎分野</p> <p>(省略)</p> <p>④「スポーツ実技A（陸上競技・器械運動・水泳・健康体力づくり）」(各種目1単位)・「スポーツ実技B（ダンス・武道1：柔道・武道2：剣道）」(各種目1単位)・「スポーツ実技C（ゴール型1：サッカー・ゴール型2：バスケットボール・ベースボール型：ソフトボール・ネット型1：バドミントン・ネット型2：バレーボール）」(各種目1単位)・「スポーツ実技D（野外活動1：スキー・野外活動2：キャンプ）」(各種目1単位)</p> <p>スポーツや運動の特性と戦術やルールについての理解とともに、スポーツや運動の基本的な技術と上達の過程や<u>体力</u>との関係を理解するための基礎的科目。</p>

<p>2) 専門分野</p> <p>2・3年次では、1・2年次で受講した「専門基礎分野科目」のより発展した内容を修得する「専門分野」の科目として以下の科目を配置する。</p> <p>① 「身体スポーツ文化論」(2単位)</p> <p>スポーツを文化として捉え、スポーツを取り巻く環境や、スポーツの意義、スポーツの発展を支えている社会など、スポーツをキーワードに関連する様々な文化論的知識を発展的に学び、考える能力を身につけさせる科目。専門基礎分野における科目「健康スポーツ概論」・「スポーツ原理」・「スポーツ史」・「スポーツ社会学」・「スポーツ経営管理学」・「スポーツビジネス特論」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>② 「スポーツ解析演習」(2単位)</p> <p>運動時の人の動作解析やチームスポーツにおける戦術分析など、バイオメカニクス的手法あるいは画像解析手法などを用いた解析を中心にスポーツを科学的に分析、評価する手法を学修し、修得させる科目。専門基礎分野における科目「バイオメカニクス」・「スポーツ運動学」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>③ 「運動処方演習」(2単位)</p> <p>生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性・年齢などの諸条件を考慮した安全にかつ効果的な運動プログラムの立案を修得し、また体力測定及び身体組成測定と評価に関する実習を行い、体力測定全般にわたる測定と評価が実施できる能力を修得させる科目。専門基礎分野における科目「運動処方論」・「体力測定評価」・「スポーツ医学」・「スポーツ生理学」・「人体機能解剖学」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>④ 「トレーニングプログラム演習」(2単位)</p> <p>筋力トレーニングやパワートレーニング、スピードトレーニング、有酸素性・無酸素性持久カトレ</p>	<p>2) 専門分野</p> <p>2・3年次では、1・2年次で受講した「専門基礎分野科目」のより発展した内容を修得する「専門分野」の科目として以下の科目を配置する。</p> <p>① 「身体スポーツ文化論」(2単位)</p> <p>スポーツを文化として捉え、スポーツを取り巻く環境や、スポーツの意義、スポーツの発展を支えている社会など、スポーツをキーワードに関連する様々な文化論的知識を発展的に学び、考える能力を身につけさせる科目。</p> <p>② 「スポーツ解析演習」(2単位)</p> <p>運動時の人の動作解析やチームスポーツにおける戦術分析など、バイオメカニクス的手法あるいは画像解析手法などを用いた解析を中心にスポーツを科学的に分析、評価する手法を学修し、修得させる科目。</p> <p>③ 「運動処方演習」(2単位)</p> <p>生活習慣病予防における身体活動・運動の必要性とその期待できる効果について学び、性・年齢などの諸条件を考慮した安全にかつ効果的な運動プログラムの立案を修得し、また体力測定及び身体組成測定と評価に関する実習を行い、体力測定全般にわたる測定と評価が実施できる能力を修得させる科目。</p> <p>④ 「トレーニングプログラム演習」(2単位)</p> <p>筋力トレーニングやパワートレーニング、スピードトレーニング、有酸素性・無酸素性持久カトレ</p> <p>⑤ 「レクリエーション演習」(2単位)</p> <p>軽スポーツをはじめ運動ゲームを中心としたレクリエーションの実践と指導法、さらには介護予防にも用いられるボディワークの実践及び指導法を</p>
---	--

<p>ーニングなどの各種トレーニング方法を理解し、実践や、パーソナルトレーニングの基礎としてのストレングストレーニングとコンディショニングに関連したプログラムデザインが実際にできる能力を修得させる科目。専門基礎分野における科目「トレーニング論」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>⑤ 「レクリエーション演習」(2単位)</p> <p>軽スポーツをはじめ運動ゲームを中心としたレクリエーションの実践と指導法、さらには介護予防にも用いられるボディワークの実践及び指導法を学修し修得させる科目。専門基礎分野における科目「レクリエーション概論」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>(省略)</p> <p>②「生涯学習概論Ⅱ」(2単位)・「生涯学習支援論Ⅱ」(2単位)・「社会教育経営論Ⅱ」(2単位)</p> <p>生涯学習や社会教育の本質についてさらに理解を深め、社会教育指導者と地域社会教育関連団体・NPOとの共同・協働の在り方や生涯学習社会における地域の学習者、学校・家庭・地域等における学習活動との往還、成長・自立に果たす学修の意義について理解し、地域の学習者に対する支援の教育理論・方法について理解を深めつつ、地域の抱える課題を見出し、探究して解決できるための方策を見出す能力を身に付けさせるための科目。これらの科目は、それぞれ専門基礎分野における「生涯学習概論Ⅰ」・「生涯学習支援論Ⅰ」・「社会教育経営論Ⅰ」の発展的科目として位置付けている。</p> <p>(省略)</p> <p>3) 専門演習・実習分野</p> <p>専門演習・実習分野では、「専門基礎分野」「専門分野」における講義、実技(実習)系授業で得た知</p>	<p>学修し修得させる科目。</p> <p>(省略)</p> <p>②「生涯学習概論Ⅱ」(2単位)・「生涯学習支援論Ⅱ」(2単位)・「社会教育経営論Ⅱ」(2単位)</p> <p>生涯学習や社会教育の本質についてさらに理解を深め、社会教育指導者と地域社会教育関連団体・NPOとの共同・協働の在り方や生涯学習社会における地域の学習者、学校・家庭・地域等における学習活動との往還、成長・自立に果たす学修の意義について理解し、地域の学習者に対する支援の教育理論・方法について理解を深めつつ、地域の抱える課題を見出し、探究して解決できるための方策を見出す能力を身に付けさせるための科目。</p> <p>(省略)</p> <p>3) 専門演習・実習分野</p> <p>専門演習・実習分野では、「専門基礎分野」「専門分野」における講義、実技(実習)系授業で得た知</p>
--	--

<p>識や技能をより実践的に修得するため、以下の科目を配置する。</p> <p>① 「スポーツ科学演習 A、B、C、D」(各 2 単位)</p> <p>「専門基礎分野」「専門分野」で学んだ領域の学問を文献研究や実験、演習をもってより発展的かつ探究的に学修し、学生が自ら学修のテーマを見つけ探究的学修のベースとなる思考や実験手法・技術を修得させる科目 <u>であり、以下の 4 つの学問領域に分けて行う。</u></p> <p>「スポーツ科学演習 A」(<u>専門基礎分野の「スポーツ原理」</u>、<u>「スポーツ社会学」</u>、<u>「スポーツ経営管理学」</u>、<u>「スポーツ史」</u>、<u>専門分野の「身体スポーツ文化論」</u>の発展的科目)</p> <p>「スポーツ科学演習 B」(<u>専門基礎分野の「バイオメカニクス」</u>、<u>「スポーツ運動学」</u>、<u>「トレーニング論」</u>、<u>専門分野の「スポーツ解析演習」</u>、<u>「トレーニングプログラム演習」</u>の発展的科目)</p> <p>「スポーツ科学演習 C」(<u>専門基礎分野の「スポーツ生理学」</u>、<u>「運動処方論」</u>、<u>「人体機能解剖学」</u>、<u>「体力測定評価」</u>、<u>専門分野の「運動処方演習」</u>の発展的科目)</p> <p>「スポーツ科学演習 D」(<u>専門基礎分野の「生涯学習概論 I」</u>「<u>生涯学習支援論 I」</u>「<u>社会教育経営論 I</u>」、<u>専門分野の「生涯学習概論 II」</u>、<u>「生涯学習支援論 II」</u>、<u>「社会教育経営論 II」</u>の発展的科目)</p> <p>② 「スポーツ実技指導演習 A、B、C、D」(各 2 単位)</p> <p><u>スポーツ実技で身に付けた知識や技能を基に、健康運動指導現場からスポーツ指導現場、さらには学校教育現場において、幅広い年代層</u>を対象とした実技指導を行うために必要な専門的な競技種目の知識の理解と指導対象者を観る観察力、そして指導者として必要なコミュニケーション力といった、実技指導に必要なスキル及び実践力を修得させる科目。</p> <p>(省略)</p>	<p>識や技能をより実践的に修得するため、以下の科目を配置する。</p> <p>① 「スポーツ科学演習 A、B、C、D」(各 2 単位)</p> <p>「専門基礎分野」「専門分野」で学んだ領域の学問を文献研究や実験、演習をもってより発展的かつ探究的に学修し、学生が自ら学修のテーマを見つけ探究的学修のベースとなる思考や実験手法・技術を修得させる科目。</p> <p>「スポーツ科学演習 A」(スポーツ原理、スポーツ社会学、スポーツ経営管理学、スポーツ史の<u>発展系</u>)</p> <p>「スポーツ科学演習 B」(バイオメカニクス、スポーツ運動学、トレーニング論の<u>発展系</u>)</p> <p>「スポーツ科学演習 C」(スポーツ生理学、運動処方論、人体機能解剖学の<u>発展系</u>)</p> <p>「スポーツ科学演習 D」(生涯学習概論 II、生涯学習支援論 II、社会教育経営論 II)</p> <p>② 「スポーツ実技指導演習 A、B、C、D」(各 2 単位)</p> <p><u>学校教育現場やスポーツ指導現場において、初心者から中・上級者まで</u>を対象とした実技指導を行うために必要な専門的な競技種目の知識の理解と指導対象者を観る観察力、そして指導者として必要なコミュニケーション力といった、実技指導に必要なスキル及び実践力を修得させる科目。</p> <p>(省略)</p>
--	---

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

4. <大学教育として不適切な科目>

シラバス(授業計画)において「アカデミックリテラシー」の授業内容が説明されているが、日本語の基礎や四則演算を扱っており、大学教育水準としてふさわしいとは言えないため、大学教育水準にふさわしい内容に改めるか、単位外で開講すること。

(対応)

アカデミックリテラシーは、演習問題を中心とした学修活動を通して、日本語及び科学に関する実践的なリテラシーを1年次早期に身に付けさせることを目的としており、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを的確に表現するための日本語リテラシーと、各種データ等を適切に処理するための科学リテラシーを修得させる。この2つの実践的なリテラシーを修得させることにより、大学における自立的な学修スタイルにスムーズに移行させる。

本来、日本語リテラシーについては、単なる日本語の基礎について学ぶのではなく、レポート・論文等にふさわしい表現、学術的な文章を読み解き、自分の意見を明確に表現する技術の修得を目的としている。また、科学リテラシーについては、①大きな桁の数(宇宙の大きさ等)や小さい桁の数(分子レベルの大きさ)等の概算・近似計算、②科学における単位系の基礎を理解し、単位変換(例:エネルギーや圧力など)や次元解析、③統計学につながるような、関数やグラフを活用したデータ分析をするために必要な計算法を学ばせることを目的としている。これらを踏まえ、シラバス(授業計画)について、大学水準としてふさわしい表現となるよう再検討し、別紙のとおり講義内容を適切な表現に改めることとした。【別紙資料1】

(新旧対照表) シラバス (1ページ)

新	旧
アカデミックリテラシー (省略) 〔到達目標〕 日本語リテラシー <u>・レポート・論文にふさわしい表現ができる。</u> <u>・学術的な文章を読み解く技術を用いて文章を読むことができる。</u> <u>・数値データの分析や文章の批判的な読解に基づき、自分の意見を明確に表現できる。</u>	アカデミックリテラシー (省略) 〔到達目標〕 日本語リテラシー <u>・辞書等を活用しながら、日本語を適切に運用できる。</u> <u>・文章の論理的なつながりと要点を的確に把握できる。</u> <u>・自分の意見を、事実や他者の意見と明確に区別して表現できる。</u>

<p>科学リテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概算・近似計算によりデータを把握することができる。 ・科学における単位変換や次元解析ができる。 ・関数やグラフを活用したデータ分析ができる。 <p>[授業の流れ]</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 レポート・論文における表現法 (表記・文法・文体)</p> <p>第3回 学術的な文章を読み解く技術 (1) (接続表現と中心文)</p> <p>第4回 学術的な文章を読み解く技術 (2) (文章構成と段落毎の要点)</p> <p>第5回 学術的な文章を読み解く技術 (3) (レポートの目的に応じた要約)</p> <p>第6回 数値データの分析と考察の表現</p> <p>第7回 批判的な読みと根拠に基づく意見の表現</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 はじめに (科学とは何かを考える)</p> <p>第10回 概算・近似計算のための計算法 (基礎)</p> <p>第11回 概算・近似計算のための計算法 (応用)</p> <p>第12回 科学における単位系 (基礎)</p> <p>第13回 科学における単位系 (応用)</p> <p>第14回 関数による解析</p> <p>第15回 グラフによるデータ分析</p> <p>第16回 まとめ</p>	<p>科学リテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概算により大まかな量的把握ができる。 ・人口密度、速さに代表される単位量あたりの量を理解する。 ・グラフを読み解くことができる。 <p>[授業の流れ]</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 日本語の基礎 (文字・語彙・文法・文体)</p> <p>第3回 接続表現の基本的な役割と段落の構成 (中心文と支持文)</p> <p>第4回 段落ごとの要点と段落間のつながり</p> <p>第5回 文章を読む目的に応じた要点の把握</p> <p>第6回 事実 (図表のデータ、他者の意見) と自分の意見の区別</p> <p>第7回 意見の提示と根拠</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 はじめに (科学とは何かを考える)</p> <p>第10回 四則演算</p> <p>第11回 概算・近似計算</p> <p>第12回 単位の扱い方</p> <p>第13回 単位量あたりの量</p> <p>第14回 関数の取扱い</p> <p>第15回 グラフの書き方、読み方</p> <p>第16回 まとめ</p>
---	--

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

5. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で外国人留学生入学選考を実施するとあるが、方針等が不明確であるため、例えば日本語能力試験等の日本語の要件が設定されているのか、また入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、明らかにすること。

(対応)

外国人留学生の受入れ方針については、健康スポーツ学部の入学定員、教職員組織、施設整備等の教育体制を考慮し適切に受入れることとしており、入学志願者が真に修学を目的として、その目的を達するための十分な能力・意欲・適正等を有しているかを適切に判定することとしている。

外国人留学生の入学者選抜実施における要件については、健康スポーツ学部では、学位を授与する教育課程において日本語で授業を行うことから、日本語の能力基準を「日本語能力試験N2 レベル相当以上」として設定し、適正な水準の維持に努めることとしていることから、外国人留学生入学選考の出願資格を、設置の趣旨等を記載した書類の入学者選抜の概要の箇所に追記する。

外国人留学生の学修支援としては、「オプション科目」の履修において、日本の理解と日本語の教育を優先することとし、「留学生特例科目」として、日本の生活や文化について学ぶ「日本事情 a」2単位と「日本事情 b」2単位を配置するとともに、大学での勉学に必要な日本語能力を養成する「日本語 I」2単位と「日本語 II」2単位を配置している。

本学では、これまでも外国人留学生の受入れに積極的に取り組んでおり、授業料減免や奨学金制度などの経済的支援をはじめ、外国人留学生学生寮、学生研修棟部屋料補助制度などの住環境支援も整備している。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (35 ページ)

新	旧
8. 入学者選抜の概要 (3) 入学者選抜の方法等 ⑦外国人留学生入学選考 (省略) <u>1) 外国の学校教育における 12 年の課程を修了の者、及び 2020 年 3 月 31 日までに修了見込みの者。</u> <u>2) 上記 1) に準じる者で、18 歳に達した者。</u> <u>3) 上記 1) に準じる能力を持つと本学において認められた者で、18 歳に達した者。</u>	8. 入学者選抜の概要 (3) 入学者選抜の方法等 ⑦外国人留学生入学選考 (省略) <u>(追加)</u>

<p>4) <u>入学時の在留資格が原則として「留学」である者。ただし、入学時の在留資格が「留学」でない者は、本学における各種外国人留学生を対象とする優遇制度の対象から除外する。</u></p> <p>5) <u>日本語能力試験「N2」以上に合格した者。または、同等の能力を持つと本学において認めた者。</u></p>	
---	--

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

6. <授業方法に適した学生数の設定が不明確>

授業方法に適した学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態にのっとった教育目的を効果的かつ確実に実施すると説明がされているが、演習形式及び実習形式の科目の同時受講学生数を 35～70 名と幅を設けており教育効果に疑義がある。演習形式及び実習形式の科目ごとの受講学生数を明らかとし、効果的な教育ができることを明らかとすること。

(対応)

効果的な教育ができるよう演習形式及び実習形式の同時受講学生数について再検討し、演習形式及び実習形式の科目ごとの教育効果を踏まえた受講学生数について、別紙のとおり見直すこととした。

【別紙資料 2】

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1) 教育方法</p> <p>[2]授業方法に適した学生数の設定</p> <p>授業方法に適した学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則った教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 70 人、<u>演習・実習形式は教育効果的に支障のない教員一人当たりの学生数を 40 人程度とし、これを超えた場合は 2 クラス編成とし、教育効果が低下しないよう配慮する。</u>スポーツ実技 A、B、C 及びスポーツ実技指導演習 A、B、C については受講者が多い場合は、受講者の希望に応えるため約 40 人を上限とし、クラスを分けてローテーションして行う。<u>スポーツ実技 D 及びスポーツ実技指導演習 D については、専任教員に加え、外部インストラクターのサポートを受けて実施するため 1 クラス最大 70 人を上限として実施する。</u></p> <p><u>その他の科目についても、受講者が 40 人を超える場合は以下のとおりの方法で実施する。</u></p>	<p>6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1) 教育方法</p> <p>[2]授業方法に適した学生数の設定</p> <p>授業方法に適した学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則った教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 70 人、<u>演習形式は 35 人から 70 人、実習形式は 35 人から 70 人とする。また</u>スポーツ実技 A、B、C 及びスポーツ実技指導演習 A、B、C については受講者が多い場合は、受講者の希望に応えるため約 40 人を上限とし、クラスを分けてローテーションして行う。</p>

スポーツ解析演習、運動処方演習については、オムニバス形式での実施のため班編成を行い各教員がローテーションして授業を行う。トレーニングプログラム演習、レクリエーション演習、障がい者スポーツ演習、介護予防運動演習、エクササイズ指導実技については、2クラス編成にして実施する。スポーツ科学演習A、B、C、Dについては、卒業研究に繋がるゼミ形式の授業として位置付けているため、担当教員8人でクラス分けを行い、1クラスあたり最大10人程度で実施する。

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

7. <専任教員数が設置基準を満たしていない>

専任教員数について、大学設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

(対応)

大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、専任教員の准教授が、職位の適格性不適格（講師であれば可）の判定を受けたため、職位を改め、すべての担当科目を講師として再判定を受け、合計12人の教員を配置する。

(新旧対照表) 教員の氏名等

新	旧
② 岡本 昌規 職位 <u>講師</u>	<u>7</u> 岡本 昌規 職位 <u>准教授</u>

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

8. <学部・学科の英語名称が不適切>
 新設学部において「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨とするのであれば、Health and Sports Sciences という名称は既存のスポーツ科学系学部との差別化が不十分であり適切と言えない。あらゆる人々が各ライフステージにおいて健康で豊かな生活を送ることができるようにするという学部の目的を反映し、例えば Health Promotion and Sports Sciences などと適切に変更すること。

(対応)

健康スポーツ学部では、「健康」と「スポーツ」の双方を軸とした教育を趣旨としており、教育研究上の目的を「あらゆる人々が各ライフステージにおいて健康で豊かな生活を送ることができるようにする」としていることを踏まえた上で、学部・学科の英語名称について再検討し、以下のとおり学部・学科の英語名称を変更する。これに伴い、学位の英語名称についても以下のとおり変更する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
3. 学部・学科の名称及び学位の名称 (省略)	3. 学部・学科の名称及び学位の名称 (省略)
学部名 (英訳)	学部名 (英訳)
健康スポーツ学部 (Faculty of Health Promotion and Sports Sciences)	健康スポーツ学部 (Faculty of Health and Sports Sciences)
学科名 (英訳)	学科名 (英訳)
健康スポーツ学科 (Department of Health Promotion and Sports Sciences)	健康スポーツ学科 (Department of Health and Sports Sciences)
学位名 (英訳)	学位名 (英訳)
学士 (健康スポーツ学) (Bachelor of Health Promotion and Sports Sciences)	学士 (健康スポーツ学) (Bachelor of Health and Sports Sciences)

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

9. <入学定員と募集人員の数が不整合>

各入試区分の募集人員 (A0 : 7 名、推薦 : 22 名、一般 : 35 名、センター利用 : 35 名) の合計 (99 名) と入学定員 (70 名) が不整合であるため、入学定員と募集人員の合計数が一致するよう修正すること。

(対応)

各入試区分の募集人員と入学定員が不整合であるため、入学定員と募集人員の合計数が一致するよう修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34 ページ)

新	旧
8. 入学者選抜の概要 (3) 入学者選抜の方法等 ④センター試験利用入試 (省略) 募集人員 : <u>6</u> 名	8. 入学者選抜の概要 (3) 入学者選抜の方法等 ④センター試験利用入試 (省略) 募集人員 : <u>35</u> 名

(是正事項) 健康スポーツ学部 健康スポーツ学科

10. <教育研究に必要な電子ジャーナルの不足>

基本計画書において、電子ジャーナルの数が0となっているため、教育研究に支障がないよう適切に整備すること。

(対応)

健康スポーツ学部の教育研究に必要となる電子ジャーナルについては、これまで大学全体として整備してきた、電子ジャーナル12種(うち外国書12種)、データベース5種、学術協会等が公開している学術論文等をキーワードのみで一括で検索できる環境を有効的に共用し、学術情報資源を効率よく収集できる環境を整えていることから、健康スポーツ学部専用の電子ジャーナルの整備をしなくとも、教育研究に支障はないものとする。

基本計画書の「図書・設備」の欄において、大学全体での共用分の電子ジャーナルの数を備考欄に記載する。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
図書・設備	図書・設備
大学全体での共用分	大学全体での共用分
図書 196,681 冊	図書 196,681 冊
[30,198 冊]	[30,198 冊]
学術雑誌 21,265 冊	学術雑誌 21,265 冊
[9,526 冊]	[9,526 冊]
<u>電子ジャーナル 12 種</u>	<u>(追加)</u>
<u>[12 種]</u>	

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分
アカデミックリテラシー	1	前期	1（30）	必修
	担当者	宮崎龍二、田野慎二、赤井俊幸		

〔授業の目的・ねらい〕

大学における学修は段階的に自立的な学修スタイルを身につけることが要求される。またそのための基礎的な学力として、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを的確に表現するための日本語リテラシーと、各種データ等を適切に処理するための科学リテラシーが求められる。本授業では、演習問題を中心とした学修活動を通して、この 2 つの実践的なリテラシーを 1 年次早期に身につけることにより、大学における自立的な学修スタイルにスムーズに移行することを目的とする。

〔到達目標〕

日本語リテラシー

- ・ レポート・論文にふさわしい表現ができる。
- ・ 学術的な文章を読み解く技術を用いて文章を読むことができる。
- ・ 数値データの分析や文章の批判的な読解に基づき、自分の意見を明確に表現できる。

科学リテラシー

- ・ 概算・近似計算によりデータを把握することができる。
- ・ 科学における単位変換や次元解析ができる。
- ・ 関数やグラフを活用したデータ分析ができる。

〔授業の流れ〕

回数	授業の構成	具体的内容・要点
第 1 回	日本語リテラシー	オリエンテーション
第 2 回		レポート・論文における表現法（表記・文法・文体）
第 3 回		学術的な文章を読み解く技術（1）（接続表現と中心文）
第 4 回		学術的な文章を読み解く技術（2）（文章構成と段落毎の要点）
第 5 回		学術的な文章を読み解く技術（3）（レポートの目的に応じた要約）
第 6 回		数値データの分析と考察の表現
第 7 回		批判的な読みと根拠に基づく意見の表現
第 8 回		まとめ
第 9 回	科学リテラシー	はじめに（科学とは何か考える）
第 10 回		概算・近似計算のための計算法（基礎）
第 11 回		概算・近似計算のための計算法（応用）
第 12 回		科学における単位系（基礎）
第 13 回		科学における単位系（応用）
第 14 回		関数による解析
第 15 回		グラフによるデータ分析
第 16 回		まとめ

〔評価基準〕

授業への参加態度（10%）、日本語リテラシー課題の達成度（45%）、科学リテラシー課題の達成度（45%）

〔教科書・参考図書〕

『日本語リテラシー ワークブック』、『科学リテラシー テキスト』

〔履修要件〕

指定されたクラスで履修をすること。

演習形式及び実習形式の科目別受講学生数一覧

【演習・実習形式】

教育効果的に支障のない教員一人当たりの学生数を 40 人程度とし、これを超えた場合は 2 クラス編成とし、教育効果が低下しないよう配慮する。

授業科目の名称	受講者が 40 人を超える場合の実施方法
スポーツ実技 A	2 クラス編成にして実施する。
スポーツ実技 B	
スポーツ実技 C	
スポーツ実技 D	担当教員に加え、現地（実習地）の外部インストラクターのサポートを受けて実施する。【1 クラス最大 70 人を上限】
スポーツ解析演習	オムニバス形式での実施のため、班編成を行い各教員がローテーションして授業を行う。
運動処方演習	
トレーニングプログラム演習	2 クラス編成にして実施する。
レクリエーション演習	
スポーツ科学演習 A	卒業研究に繋がるゼミ形式の授業として位置付けているため、担当教員 8 人でクラス分けを行い実施する。1 クラスあたり最大 10 人程度を限度とする。
スポーツ科学演習 B	
スポーツ科学演習 C	
スポーツ科学演習 D	
スポーツ実技指導演習 A	2 クラス編成にして実施する。
スポーツ実技指導演習 B	
スポーツ実技指導演習 C	
スポーツ実技指導演習 D	担当教員に加え、現地(実習先)の外部インストラクターのサポートを受けて実施する。 【1 クラス最大 70 名を上限】
障がい者スポーツ演習	2 クラス編成にして実施する。
介護予防運動演習	
エクササイズ指導実技	